怠笑樂日記 一之

第
号
杉浦文庫
冊

松浦伯爵家藏書記

特別
～13
3548
1

特
門 へ13
號 3548
卷 1
6848
五冊
松浦柳塘
藏書記
昭和三十二年
十月二日
購求

序

宮内省圖書寮

帝國圖書館藏

帝室博物館藏

寶文

後つゝりの後言綺語と草紙にあや
たがへる事數十部九十冊みちゝて長号筆
とるこゝもてづさゝ多くゝ其名ふ物ゞ記て
書せに今是をかゝあとゝひ物る自れ
答よはうがよべて あと長る草帝は題号と
小詠み作て世にひろまり詩うづきの物語紙
種一言乃種をして人は名もうづしれと格ぐの

紙は半切巻として世に行はれ
此度其笑が書れ事常々おろ僕と
もに筆紙墨ばしわきび常盤の松の色
ひさしく弘きよみはくさもひたんこと紙
形人と書おさめ

延享四つ
卯の神月

八文字
自笑
作者同
其笑

自笑楽日記巻之一

目録

第一 義を無て寶い白狐玉
三代男好とをゆく古代の長者
女人の長ぶ金をめぐき高家軍
ふ人は男に成て内儀ひ

第二　婚姻を為さる家業は能く時日

[illegible]

長者の金は散てゆく孤独さへ

例み大風に亡人がやしい離別

第三　不稱な客は稱な世話を蛾夷嘲

密まとお抜で[illegible]金は色仕組

客をだまさしまつかる卑[illegible]

賢人のれを見て用はさいるか一[illegible]

一　義とて[illegible]に賓は白狐

賢文に狐ごをふるの野なり。文笑ふ狐ですかそち

実なり。文賢[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]て。近郷の商をかゝぶる者多く。盛勢ひゝ人に
大名のひとしく。時より帝後高島流よりをこゝ郷乃
地頭代より補せらるゝ。人の用ひ世より全んじ。こゝ古帝の
[illegible]の黄金を作り[illegible]年まで人みな白銀をつくて。珊瑚
杖などに用ひるかきそど。安なごうとりるやむ始り。年[illegible]
珊瑚珠めてむくしより長者い人恵の紅風乃卵みなぐく
出ていてあれたさるうのあやしきものをちのまに。系乃
岩金屋乃白銀[illegible]太坂虎屋乃羊羹。[illegible]代乃まんじゅうなど
むしろをさゝめでれば。信濃の新蕎麦。七月に信濃の
乃鮭より鰹藏を月のそゝりよりけゝこ。二月中旬ゆ瓜とすむ
と自傍色くゆりる待もさい長者より栄[illegible]みゝ[illegible]ぶゝ。
長者唐藏より蕃国ふ[illegible]ゝ。強代乃長活九[illegible]

野[illegible]。揚州陽[illegible]。方々よりつゝてもとに人間を養蚕
桐油商八後唐茶十年。かゝぐ紅花沢の乃ふさしひゝ人の
機織をうかゞつゝそのみれ中八巴の写石要の用より鮮糸せり。
長者やさるくハゝ生[illegible]祖高岡岩乃明神めぐゝれよりて家
格式まで以来てありくなる事。乃の国くゆりといをゝれ七代ふ
あゝりてゝ。去[illegible]おゝて奥嫁ふゝきにより。安乃
事ハさて亜[illegible]えの女もあゝりへよやど。ひまくけ家督他人の
抱とやんも生祖への石要神魚にもおそまあるゝ。[illegible]
時を初くよゝ[illegible]て。白川みゝ[illegible]琴とゝ[illegible]人。逗留の間さ乃
とゝ女をひそふかくへ[illegible]に縁でふあゝめ。女おゝとゝ[illegible]。
玉えの奥くのきくをゝうゝ人をゝふゝ。守なゝと石乃ゝ
さふさゝ一すハ家の正親ゝ財ゝみ金ゝん。ゝて乃名家と月年

九郎右衛門
上羽蝶二郎
相馬尚八

四方にて毒とともにいろはをけらへ。その後たちをきうに毒
殺はせて居れば。てうど今出家のたちの
上家にはくとしの女をかりてそのうふまをきしにそも懐妊して
男子をうみしかども。行ぶんなる書のいをもりして見る程むり
かつき新文兵衛入道殿の寄子の守力小弟ごまたちを新文を
書つけ名刺をもつて後日にたくろもゆるはげうじむる
ぶきさ。ちうけうち。母は金子をもて百姓を切る事。今ふ
かりていまうしさやる方なく。去る十一月廿日の若ごもを
さしのぶ。てせんぎさせてあれば男子をうこしるはくとして奥
まろへ。て。密まけるものしてまた紛なくありしが。その男れ子を
ぶんぎ。ともやに強盗人四せきにかりてりるもとに一日ちまめる
拾りうるとの事なれば。弱きもるにもたる。又女のみどうみち

さんとうとして女を妻にうこ。ちを拾て世をとる若と
まゝ娘みめしがを結を大切みかけ。節日のうえのさねなれば一番ハ
世に出さ程ぶおうねと。彩やてうやとはみがをてそぶてしに。
その母親の名地をてうづひつさ。ひ井にかくなりてはのふお
そて結十一歳のとき。ぬ。又敬の焼れ傳八女房の子又日もたく
わふ。賢結み奏てやりそのの金を勝みつをて母波ちへしてそも
つのようそのくちりてくものをうの法姫を奏てやり見い糸くも
大仮ともに結毛町ちをもやう。そは傳八がお傳屋に居さる事を
のの又姉こいて若み宮ぐけ四ちりもうれば男の子ハ下僧さぶを
ぐさ事家ちれで。京大坂ふうと。奉行ふ。ようしくぐ。
安治川の二千町四ちの新古京。宝鈴。九ちまでも今新
はをてさぶざせをぐうを出さしうはとうてのるとそぶと

ぬとて、年あるべうもなし。皆、をの相伝にて、ほとんど絶えぬ
べくなるを、彩色いろ〳〵やう〳〵の義をもて、今は絶えもせず
ひろまりぬと、深めたしなるべし。あんばいおこふをもて、ほかに
ぞやとなる。九曜星、年つい年ごとに、色をてのべたるは、
さいさいとなり。只、その金をもてたのしまんと、ものをつくるか。
大変、義をもつぐべきなり。細義も、仮でもなくさせんとぞ、
なるべし。色いを、法花の法の法ぞ。ところく、金物をはさちしぞ。
ども、法方の色里へ入てこそあるべけれ。月毎と市めくるを、
をしへいんと。一方の長法、揚物、ぞ〳〵。動乱
ある侍ぬて。むろ〳〵法義よりこそ、色をあてど
なしにまきをてんすい法花より、神魚にのふをせう、一和れ
おそれもあるべし。つくて、結ぬへまろ。世安、長の肝いろ

いつくを、若どもれ、今年の二月、でしもくれて。その里ぐを、空名さべ
結ぬるをく、初生べしとて、相北南八、張者第十年も、国意。
ぶつさし、方ぞをくめる。長者も、ぶつく、思案して、一方へ、社奥
小年よせてさぐりとそんとの後。まこと一方をそもいろへうけて、
筋くをたぐ移んとあるす。つくさまは、方ともに一理あり。ぶまう
ちろるべきぞ。ぶく、宮白祇も、美金の楷の第のおして、神園を
とるべし。揚者のとり年にでんまく。皆く、休息つさんべし。と湯
あを弟をしむる用宗ぞ。ぞせ〳〵まを体

二　船を組さもう家元の数約　肺

新しきいそれ、神小変せよと。ぶんぶをし〳〵ぶぐをおのをを
宝るの祇則なるべし。ふ義、長者、実るへ法めをなしらと
いへども、家は四創として。豆こんでろにあるべし。賞義を

ひとりごとその外より和さ人も賓相ふちづきをぶ。古の賓
あんのぐりの家賓名の丹陸うをべーとのりたく人なれ宝義
乃国の社をうまへ。おぐたくにまりうやまひわるもーふ和の
ふくるをはちはきをいうの種をぐ。古人も稲も史と沼先。
賓義へ入て家和をいくーい社とんをべ。頭移ぐ切て戸まう人
ひくりぐ。先いと国をんてくるて和。社内より太の男弱うちに
正布をはくん。新と宝まはやりぐ。ふろきはを。を。て太仮橋
ちくく。家の名おもんれぐ。白狐むれ。ぐうくるとかへ。ぬくと
出てまちく切ぐとせべ。仮先なるぐといくせもあんど。ぐりく人
裏浜長にくりたくをべ。たちくくとたれて。出あんくの声に。
さうぐ。ち勢かけ付ぐと人てが。の男之橋の名いとる事。あくと
りべ。ちのびちをやけわふより玉の名ぐ。へ。ゆくふもちれど

ひけうせくり宝ち先つ。塀ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。神園をむまくと
延出しぜぐ巳ゆ。ぐ。ふぐ。焙とかげうをきくり。長先と分。
さてやけあふを見まべ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ちくぬと見ゆ人。人をいまてわくを人をくに。裏門の塀乃
大石をわきぐれより塀てくくく

まれつき白狐玉ぢく孫の三橋二つの宝をもて我代く富貴せしに今白狐玉をわとる海ゐく雲。まつく神恵にてゆくうありて。白狐我身とまれの孫となりと見人くりぢろれたり。びくきに金の三橋れいまぐ失ぐろ。ゆを孫神の守るとゆる。ちろーなれいぢろ人我子ーくりくもてくもと悔ぐ姫をゆるの。

[illegible]せくろくてて忠義なるべきもと九羅宝をつ方の若ぐいい。

大東ゆやつー姫をゆんとつ。橋孫際三神方の若いきもいつよりせんぎさせんとゆ。ゆれいていなもび神羅とる雲もわくいと。

きもいつをうけてさぐさんるゆ列義むゆ。ゆつて宝ぢ者姫裝束にてわ見とゆ世のゆ沙法ふもなるべー。お方中よくとわるせいるにも大東ふやつー人ちもびるゆを出をゆまるて出ゆれ宝ちゆ。義ちゆ。孫義一組となり。孫三神。高八。紫十あく

くく合いぢもあてゆ姫をゆ[illegible]ーくる者をもぐれ姫とゆあるゆ。

ひ赤の長者くくて。ゆくる若いゆ白ちく家来となりてはくるる。

ちそ。代く法くゆるくぐくくもつ宝ゆれ。その上ゆがおくて。

多ふ敵をくんくせぐ。姫ゆ家をはぐもくゆ延くもべー。暗紙

ちづゆふ出ぐーくゆ。ゆそ。ひ古人ゆ四ゆくくなもび親くくる。敵

ぐいぐんぐんぐ。ゆをくくりゆ白ちて孝くもゆ。ゆべれ

ゆくる赤中れ赤ゆ七ゆいゆ見ゆぐまりて。三橋の守護をはくゆ。

くんぶくふいゆ方へくくちゆ。ゆいぐ実れ見ゆちすべーと。ゆ義ゆり

ゆゆあへの金赤世ゆを出くゆ。ゆ出くゆ。ゆ人ふ男ゆでゆくくされぐ。

ひ人ゆ古ふくくゆ。ゆゆも宝ゆつくいゆ人ゆぐーゆ法ゆでゆくれ

ゆくて出赤くれ。ゆのゆをやれ姫子をゆぐーゆ出ーゆ。ひ赤のゆ

ゆくくんゆ福徳のゆ三年ゆくゆゆ。ゆくゆ。ゆ人ゆゆ赤。

はつまきちらしを拵置、其内人数のたのしみとかつぎとのゝ
蝶こゝかしこゝにおちゝ、はつまきを結ひ、大重にやり
おてまつりんぐこゝさつてたゝ、始より、小出家をはきと
しん。先祖数代主従のしるしも他門へのこゝきはどく。かつぐ歳
主にもさいはいをもたらさるべし。天理おもおもいさぶ。出雲
てもごさつぺ。近国屋くこの方より。婿殿とゝまつてまつり。
そのうへあてゝむをゝまとゝ。さらのきたる若をせんぎゝてこゝ
仏をちるべ仏をちりにたゞ祝ん者ゝとゝふべ結ばゝ。
長者かさく祝てゝちゝべ結ばたゞ祝出やゝこれ来ゝその者人の
仏法をゝいつんべゝ。ゝをゝまこゝゝるがゝまこゝてみゝちゝ。
そんべゝにちりはけゝる付ゝまゝちゝく切つけ。ひゝかゝ離れ数こ
あゝつて全ゝこゝの義みゝべきゝべゝまゝるべゝさんで身が新ゝり

あゝ巳を弘めさゝゝぱゝくゝんまゝい九に一文字のゝ巳絵ゝ
巳をちるゝにもゝまゝさゝるゝで堺こゝ方へさゝ一あゝその義べゝ
一枝足ちゝ方へさゝ一義のゝべき一枝ゝゝちゝけれやあてゝ
ちりゝもあまゝべゝ。ちゝ切ふ懐中をる内。長者ちゝまゝとゝ海ゝ
ちゝしゝ。ゝまゝくゝ古れ根ゝべゝろふ書ゝ珍寶及天竺隠今
修験不遠若ゝべゝ。経文ゝいゝゝゝさゝ。ちゝまゝゝ。ゝゝゝ義
乃ゝゝ。ゝ家ゝゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

ぐく。袋をはくまいてあるとうかれ

三　石鞘のおふ様の世話を蝦夷物

鞘より川へ流るとゝふ。ゆかりて石鞘若い野蛮人ゑすでゐがし
はふ。れ。ゆかりぶんをつゝまれて。ぶぐ。ゝ。ゝ。侍ゝ。酒ゝ。龍谷南方
一挺を絶家。ゝ。ゝ。附ぱ。ゝ。ぶ。ゝ。ゝ。ゝ

詰箱おびたゞしく仕立道中記を拵へ。地羅紗羽織
をきて。ひの川の神宮町金川原川までを会いまして。
色々よりや程日をおくれて。都ちかく。へい賣まうでさとの者ほうう
おろ〳〵よりぞや。張家〳〵おのさらく。大名美たるつい都古際の
繁昌町かとぞこ。訓義いはゝこの詰禾町より本辻をの名がけ。
羅波と崇へあげた。蝶こ京方へうけれぞれ。めてたれねい名物の
丸ぐまでぞ。ぐめるたりみぞ。ふとをさぐ。ゆりる。かくぞ。徳義
地獄さ家ふたこ。絵ふ名。望れ。汚吸て。乃てう。寄もなれど。
まあ熟地ぐりの出をだめの。ふく。西国がさ。大商人に乃をうけ。
伝見桃の町といふ。ふよ旅宿を。ふ人。ちろぐの侍を。走行さて。
紅宿。弼切角屋のふ。ふ。張内さを。善ちうをぐんとけさ出に。
張本町へとや。ちとぐ。ふ八がちうべなんだ。おの。茅屋より。福ふ。

人をやるやつるや。新しがあるぞ。乃ぞ。乃ぞ。
大門ぐちまでのりぐ。ふ。張。紅宿。月伝ちを。とつ。茅屋。ふ伝
いつ〳〵。ふ。ちぎれの。加ち。ぶ。桃。乃。ちとれて。ゆ。ちとちうつ。ふ。び
ぶ。ふ。ふ。ふ。れ。る。稱。ふ人。の。ふ。ふ。ふ

ぬけあるとぞんぜもろ
ひ～ふ

宮ちかづいて小船を出して出でてけいせいをあをたすけのことをべかつて女郎をとりて新ふさんそのうくむさと金をとられけど結句たらけめ。ぶいるとつ吳服をはろうー切角つて金にも出金のはらい話あり。ぶちもすくはたくさんとさくさくする。ぶいろうせ屋と新はきとう者ともいひあうせて。吾合ひどぶかう。商に用をもらうもどんおろうとおろうづきどうとくなりたあり。ちれうとくとぶハがさうづきさーあぐまびちで一歩もやる場うちどし家い配金の場うとうちうの四くまをいきりうくちてはまてうちれにめうぐせとれがまごその場ゆうどして自をにすづ重をとりあを一ちいうけてれなのふさーもおれ義ちひくさーー出せどぶれはくーいうやたかつきうとされくのこうでうる糠のまりあひちうちまさあちとはあうくなちれうと

ちいーやかさーー出まどぶれなのハ日ぶ私宿のむをとこふくはき中なれども。密までめくおきくあまべ小ハがうはけてそうちどたのーむ中なれどぶたうをあおむとしてまうきちにしまくれるちどそてまけもあひくてきやさんあうさくさんとあがくぬにて今乃ひとりでおうきに出まうーーおふさふどうはぶーーを紀いて氣いなくいうあのとさうづきとりあぐまべ大きうをかのは金のはうしいだとぶ妙ととうれ間ちうにて金ちきあ五いどー。色とあのくくを出ぶとと弁費で女郎くちふとまくいたいて仲私少て。色を寿代のたりーうふるあて海をうくされうがぶ出で女郎くくいきうーとおあひくとぶハがうちけどー氣ーー
こて宝ぶ金にめくうとちを面ーして長老のおあくくでうちさーた。
ちぶれはゆくくくきあのをうべはをうくに意と自慢はをの

吸酒徒ふさらつ本命丸とうり出たとてらびにうをそろ敵本命の
内かるたるがこ儀よりさんちうくとみづけ小判壱両あ
あまり。舞申へこゝをてつ小奥正寺ゞちろきとて公儀の子
御ぶこいてさん。まる奥よりう美丑ろいろ地とぷハゞ戸ふナあ
まこぶあて。ぶ拍乃こ。ぶかあさゞきんろづくとつべのろ若大
さいぜん大るこいだうりかまへて。ぶたれぬ高新よとゞけこう新
まてゞ。ぶくひこいあつめナあ祇あいこぐねりのいなくかゞ
ゆちてこにあり的のこそやゝかれいば女郎どもゞ。ぶ波まさ
ゞひきこてるさこせんにたをふきゞんなゞこ。ゞとり
うへさまもせゞ。孫蔵の源あさりでいせまいりゞ復廣はに
あふる相あつきにたれ。ぶ。それなわい。ぶくたいこ乃ま白。
ゆゝさんの。ぶやらうこもおこゞのかくらねみ。ぶたろきいてされ

うこぶさとのそゞにたるこうまろれゞぶハあゞ。ぶひ
今育こゞめてのあをゆゝきあゆるあつひと。間ま
ゞどこゝ。ぶ。ぶやあ家とと。ぶ。ぶの家ととあ乃み
こゝせ。ぶきゞくいつゞけ乃にて女郎いゞ。ぶもあまいにてた。
れなねゞこりる。ぶとくゞずぶそのまくにて家へ入さこ
せんとりこせさてもくこゞめてあなきれにさんゞきぶび
さゞさあゝろこゝまにます。人ふこゝこゝ。ぶ。ぶの私こう
乃ゝひ。ぶ。ぶ。人ふをもこ。ぶまこ。ぶの私こう
こりぶこのゞこ。ぶうけてゞふ。ぶかこ。ぶやうこれゞこてこりめゞこそ
わてゞくこゝこゝゞ。孫蔵もこりをけくろひゞんをこゝて。ぶゞいゞ
金をゞ。ぶこる。ぶかするいゞゞこの女郎も。ぶこをあこゝせこゝ。ぶ
をひこゝいゞ。ぶこゝこひこゝこゝいゞ。ぶこゝこゝ。ぶ

いてもうしてとおいさりくおどろきへ〜ちろへとぐてゐ御
みゐ後とのなひものと宮ぐんにてふとうりざるめて武士の
さ移めて海てなどにてこれをいつ拾ひ事をとうへ大夫殿の
見結ハといつ者のむとあといつあとおーうしさてもきたひ
用水桶ろか。なるかどかんのさそ石いさるまそくなれどもけが
あいてやーるひ釈ふこまを大坂の新町でんひふづるこいてを移
をあしいろう来てもろろぶもとどろへ。それでこやくさんがさも
見方矣とよばれ〜弟なれも。武士さんぐこそたれぶふり法をさ
ゆんそれでんなーわと山里へ肩をかくてのはとめふをかくし
ませう。あのおろまたされて市おなされ〜新宮のかんといおうが
どうもはまるね事わりて。市あといつ今を借ろてりこい〜まを
いひいてにあの方〜家まれあ〜はけての行んでろいやでく

なーねども。金ゆへくまくいつのだろうとなけどん大分そうせるの数
の姫でゐーこと。さい布より市あ出ーてその指ふやりの新へなが
はけられまとこーこせん女郎の名ゆうまーや山内へ指あでほろ
乃こて金をとあ〜ふ〜ふ会と一生そろんとそびころだろいおい。
ちーめろふとお後ともあーさび面ざこせんこのせーれり方袋
に観音いないうとさんが観音ごぐんやねが親のゆだりて親孝行
孫田の教愛の札が十八枚ごさんをといふ。奥をさあ〜市あおーや
ろくらほんとでなさきれ

一之巻終

▲見るちよと西川ゟ上る

西川祐信筆

繪女花乃鏡　全部三冊

右若御細屏風獨衛立の絵を見て天倉也鏡ゟ和らげ
西川氏の筆まちりさる絵なこ私絵中

附り　思ひくさ　あやつり　ものと言と仲　嫁い小結びの神様

忠見　兼盛　彩色歌相撲　全部五巻

義二　人退治の西れゟ多る者花の夢枕
移言の志ますりを云さてるい移手枕

右之繪本ハ正月二日ゟ私西郷ゟ拾て下さる